

ブラジルから見た日本

学校所在府県：大阪府

学校名：大阪市立難波中学校

名前：田中 尚恵（理科）

実践教科：総合、学活、道徳、理科

指導時数：5 時間

対象学年：中学 2 年生（2 クラス）

対象人数：67 人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

教師という仕事をするうえで、今の自分にできることは何かと考えたとき、子どもに語れる経験を積むこと、子どもを成長させていくために自分を成長させることだと考えた。そして、私は教師海外研修に応募した。ブラジルという国について、知っている知識はメディア媒体から得たものばかり。でも、“知らない”ということは“知る”ことで多くを吸収し、成長することができる。この気持ちで、私は教師海外研修に臨んでいた。研修で出会ったリアルなブラジルは、自分が想像した通りの部分、想像以上に良い部分、悪い部分が混在し、ひとことでは語れないような国だと感じた。

その中でも特に、ブラジルで出会った日系人の方が築き上げた“ブラジルの中の日本”に強い感銘を受けた。そこには、私の知らない日本があった。祖父母たちから話を聞いたような時代の日本。なぜだかわからないが、それがうらやましく、懐かしい気がした。こんな気持ちになれたのも研修に参加できたからだと思っている。この研修での2週間は、毎日本当に多くの刺激を受け、私にとって心の底から充実し、幸せだと感じた日々だった。やはり、日本の反対側へ行き、知らないことを知ること、また一つ成長できたように感じた。今後はこの経験を多くの子どもたちに伝え、ともに国際協力について考えていきたいと思っている。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

今回の授業は、日々の積み重ねが自分の将来へとつながるステップとなることを理解できず、日本という国や自分の将来に対して悲観的な感情をもつ生徒に、日本の素晴らしさを感じさせ、日々の積み重ねが自分の将来へとつながることを理解させる。ということを中心に授業実践を行った。また、この授業を通じて、生徒が自分の進路を具体的に考えるきっかけにしていきたいとも思っている。日本という国を日本の外から見るとどのように見えているか。日本の中の情報しか知らない生徒に、外から見ると日本がどのように映っているかという部分にも気づきをもたせたいと考えた。

まず、ブラジルという国について学び、ブラジルについての興味、関心を持たせ、日本と同じ部分、違う部分を理解する取り組みを行った。その後、国際協力の視点から、治安が悪いとされるブラジルにおいて、治安改善のために日本が大きな役割を担っているということを知り、日本が、他の国から頼られる存在であることを学んだ。そこから、日系人というキーワードで日本とブラジルのつながりについて理解を深め、移民としてブラジルへと渡った、自分たちの先輩の苦勞を知り、苦勞から生まれた功績について理解した。最終的に、今、日本で生きる自分たちが、誰かのため、日本のため、将来のためにできることは何かを考えた。

(2) 授業の構成

| 時限・テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|---|---|---|
| 1 時限目 ブラジルを知ろう *ブラジルに関する基礎知識を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none">● ブラジルに関する基礎知識をクイズで確認する。(国の位置、時差、言語、首都など)● 地図でブラジルの位置を確認する。● 写真を見ながら、ブラジルがどのような国なのかを知る。(食文化、学校、サンパウロの街並みなど) | <ul style="list-style-type: none">● Yahoo 地図● ワークシート● 写真、動画 (パワーポイント)● CD (ブラジルの曲) |

| | | |
|---|--|--|
| <p>2 時限目 ブラジルの治安</p> <p>* 日本とブラジルの治安の経緯について学び、日本では当たり前だが、世界では当たり前ではないことに気づかせる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● “目の前で事件が起きたら、どうするか？”という内容でグループワークを行う。 ● ブラジルの治安を改善するために、日本の交番制度が導入されていることについて知る。 ● 日本とブラジル(開発途上国)とのつながりを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 写真 (パワーポイント) ● ワークシート ● 画用紙 ● ペン |
| <p>3 時限目 ブラジルと日本 ～フォトランゲージ～</p> <p>* 日本とブラジルのつながりを学ぶ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● ブラジルで出会った、日本を感じるものの写真を用いてフォトランゲージを行う。 ● ブラジルに、日本文化が浸透していることに気づかせ、その原因を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 写真 (パワーポイント) ● フォトランゲージ用の写真 (6枚) ● ワークシート ● 画用紙 ● ペン |
| <p>4 時限目 日系人について ～モノランゲージ～</p> <p>* 日本人がブラジルに渡り、農業を広めたことを学ぶ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● ブラジル原産のものを用いてモノランゲージを行う。 ● モノランゲージで使ったブラジル原産のものを日本人が作っていることを知り、移民について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 写真 (パワーポイント) ● ワークシート ● モノランゲージ用 (カカオ、コショウ、ブラジルナッツ、ピラルクのうろこ) |
| <p>5 時限目 日系人の功績</p> <p>* 今の自分たちに何ができるかを考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 移民制度の背景や、経緯を知る中から日系人の功績について理解する。 ● 日系人は苦労を重ね、惜しまず努力を続けてきた結果、周りに称賛される今がある。私たちの日々の生活の積み重ねが将来につながることを理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 動画 (現地で出会った、小長野道則さんが出演している番組) ● ワークシート |

3. 授業の詳細

1 時限目：ブラジルを知ろう

ねらい…ブラジルに関する基礎知識を学ぶ
ブラジルが日本と同じように発展している部分を知る

◆内容◆

- ① ブラジルについてのクイズ
授業の導入として、ブラジルの基礎知識を問うクイズを行う。
内容：ブラジルの国の位置、時差、日本からどれくらいの距離にあるか。など
- ② ブラジルの位置の確認
→ Yahoo 地図を用いて位置や日本からの距離を確認する。
- ③ ブラジルの食文化、学校生活、サンパウロの街並みの紹介
→ 写真や動画を用いて紹介を行う。
- ④ ひとこと感想の記入

! ココがポイント

写真を用いて、生徒たちにリアルなブラジルを伝えた。このとき、開発途上国であるブラジルも日本と同じように発展しているということに気づかせるための工夫を行った。



授業のようす①



授業のようす②

生徒の感想

- ▶ ブラジルの学校はきれい!! ▶ 日本の食事とやっぱり違う!!
- ▶ ブラジルは発展している国ということがわかった。 ▶ 街の落書きがすごい(上手い)。

◆所感◆ 内容を盛り込みすぎたので、生徒たちの感想を見ていくと、自分の授業の目的がうまく伝わっていなかったように感じた。しかし、予想以上にブラジルに興味を示してくれた生徒が多かったので、今後の内容について精選すれば、伝えられるものは多いように感じた。

2 時限目：ブラジルの治安

ねらい…ブラジルの治安改善に日本が関わっていることを知る

◆内容◆

- ① 開発途上国とは？
→どのような国が開発途上国にあてはまるのか。
また、開発途上国と後発開発途上国の違いを理解する。
- ② 開発途上国の課題を知る
→治安、インフラ、貧富の格差などの課題があることを知る。
- ③ グループワーク
テーマ：目の前で誘拐事件に遭遇したらどうするか？
→この内容でグループ活動を行い、答えを画用紙に記入し、発表を行う。
- ④ 日本の交番制度の導入
ブラジルで日本の交番制度が導入されることで治安が改善したことを知る。
- ⑤ ひとこと感想の記入

ところで…こんなときどうしますか？

あなたは下校途中、こんな場面を目撃しました。
女の子は連れ去られてしまいました。
目撃者はあなただけです。



あなたはその後どうしますか？

！ココがポイント

グループワークを通して、日本では当たり前の警察や交番の制度が、世界では当たり前ではないということを伝えた。

生徒の反応

- ▶ 警察官が事件発生前に、地域をパトロールする習慣がないということに驚き、海外の警察官はどのような仕事をしているか？などの疑問を抱き、日本の当たり前が世界で通用していないことにびっくりしている生徒が多かった。

◆所感◆ この授業では、グループ活動において全ての班で、“警察・交番”というキーワードを引き出すことができた。この活動を通して、“日本で当たり前に行っていることが、世界では当たり前でない。”という事実を生徒らは理解できていたように感じた。また、ブラジルの治安に関して興味を持つ生徒が多く、日本がブラジルの治安改善に貢献していることに、素晴らしさを感じている生徒もみられた。

3 時限目：ブラジルと日本

ねらい…日本がブラジルを支援している理由を考え、ブラジルと日本のつながりを知る

◆内容◆

- ① 国際協力を行っている機関について
→国際協力を行っている国際機関について学ぶ。
また、「なぜ、日本がブラジルを支援しているか。」考える。

②フォトランゲージ

テーマ：ブラジルで出会った、日本を感じるもの

→写真が何を表しているかを考えさせ、ブラジルと日本のつながりについて考える。

③ブラジルに日本文化が浸透していることを知る

→日本文化が浸透した理由を考える。

④まとめ

→日本文化が浸透している＝日系人がたくさんいる
だから、日本はブラジルに支援している。

⑤ひとこと感想の記入



生徒の感想

- ▶ 遠い国はずなのに、ブラジルに親近感がわいた。
- ▶ 日本のものがたくさんあることがわかった。
- ▶ 頑張ったらこの国で生活できそうな気がした。

◆所感◆ ブラジルに日本文化が浸透していることを、生徒たちに言葉で伝えるだけでなく、現地で撮影してきた写真を用いて説明することで、よりリアルに伝えることができた。ただ、生徒たちは、社会の授業で“日系人”というキーワードを学習済みだったので、ブラジルに日本文化が浸透していることについて、“なぜ？”という疑問を抱かせ、考えさせることができなかった。

4 時限目：日系人について

ねらい…ブラジル原産のものを現地で日本人が作っていることを知り、移民について理解する

◆内容◆

①ブラジルの日本文化

→ブラジルで日本文化が浸透している理由を考える。

②モノランゲージ

テーマ：ブラジル原産のもの

→写真と関連するものを見つけ、それらが何を表しているかを考える。

③日本とのつながり

→モノランゲージで使用したものが、日本とつながっていることを学ぶ。

④移民について

→移民制度の下、多くの日本人が海を渡りブラジルへ行ったことを知る。

⑤ひとこと感想の記入



！ココがポイント

ブラジル原産のものが、日本に輸入されていることは知っていても、それを日本人が作っていることは知らない。ここを伝える！！

生徒の感想

- ▶ カカオ豆は、本当にチョコレートのおいしがした。
- ▶ なぜ、自分の国を捨てて海外へ行ったのか。疑問に感じた。
- ▶ カカオを日本人が作っていたことを知った。日本人はすごい。

◆所感◆ グループ活動を行うと、生徒はそこに集中してしまいがちで肝心の内容を伝えるための時間が短くなってしまった。時間配分が重要だということを改めて痛感した。生徒らは、普段食べているもの、ブラジルのものだと知っていたもの。これが単純に輸入されたものというだけではなく、日本人が作っているということを知り、改めて国どうしのつながりを理解できたように思う。

5 時限目：日系人の功績

ねらい…日系人がどのような苦労を重ねてきたかを知り、自分たちの将来とリンクさせ考える

◆内容◆

- ① 移民制度について
→どのような背景のもと移民が行われていたかを理解する。
- ② 小長野道則さんの話
→小長野さんの出演している番組を見て、移民した当時の日系人の苦労と現在のブラジルにおける日系人の存在について考える。
- ③ 現代の日本に生きる私たちにできること
→日系人の方々は多くの苦労を重ね、惜しまず努力を続けた結果、周りから称賛される今がある。日々の積み重ねが将来へとつながることに意識を持たせ、自分に置き換えて考える。
- ④ 感想の記入



! ココがポイント

現状に満足せず努力し、どんな状況でも他者への思いやりの気持ちを忘れずにいることの素晴らしさを生徒に感じさせたい。今が将来につながる!!

生徒の感想

- ▶ “緑の地獄”と呼ばれていた場所がどれだけ過酷だったか。自分だったら耐えられないと思う。
- ▶ 小長野さんが強盗にまで農法を教えたという話に感動した。
- ▶ 私も、将来誰かの役に立つような、人を助ける仕事をしたい!!

◆所感◆ 小長野さんの番組を見て、涙を浮かべている生徒も見られた。生徒たちは、今まで教科書で文字としてみていた“移民”や“日系人”というものの実態を知り、その苦悩を感じることができたように思う。周りから称賛されるまでの、語りつくせない苦労を、自分に置き換え、今頑張らなければならないと感じている生徒も見られた。今回は映像ではあったが、私が聞いた話を伝えるよりも、経験者から直接話を聞く方が伝わる内容が多いと改めて感じた。

4. 成果

この授業を通して、生徒たちに“日本の素晴らしさや、世界で活躍する日本人の姿”を、少しは伝えることができたように思う。実際、この学習を終えた後、今まで日本にしか目を向けていなかった生徒たちが、世界に興味を示し、他の国の情勢や、日本との違いについて話をしたり、考えているようすが見られた。また、国際協力の仕事に就きたいと考える生徒、自分の将来について目を背けず、きちんと向き合おうとする生徒も見られた。このように、少しずつ成長している生徒たちの姿が、私にとって嬉しかった。自分たちの先輩にあたる日系人が苦労を重ねる中で、諦めず努力してきた結果、今の生活がある。これを目の当たりにした生徒たちが、少しでも自分の将来に目を向け、今を将来につなげてくれることを願っている。

